

苗場山麓 ジオパーク

Vol. 19

振興協議会だより

[発行日] 平成28年6月24日
[発行] 苗場山麓ジオパーク推進室
[お問い合わせ] 025-765-1600

「ジオパーク新潟国際フォーラム2016」が開催されます！

糸魚川・佐渡・苗場山麓のトライアングル・ジオパークが、手と手を結び国際フォーラムを7月27・28日の両日、新潟市万代島にある朱鷺メッセで開催します。アジアに広がる世界ジオパークとの連携をテーマに、自然環境である地質遺産の保護と教育について議論します。ワークショップ会場では、全国各地のジオパーク出展による楽しい体験があります。

詳細は、苗場山麓ジオパークHP (<http://naeba-geo.jpn.org/>) にあるバナーからジオパーク新潟国際フォーラムのページをご覧ください。また、苗場山麓では、無料バスを7月28日に運行予定です。国際フォーラムへの参加、無料バスの申し込みは、苗場山麓ジオパーク推進室 (TEL 025-765-1600) までお問い合わせください。

体験フェア

巨大すごろくにチャレンジ！

★入場無料。お申し込み不要です。

朱鷺メッセスノーホールにて、ジオ体験ができる巨大すごろくが登場します！サイコロを振って止まったコマのブースでジオ体験♪

《日時》 7月27日 (水) 13:30~16:30 ・ 7月28日 (木) 9:30~14:00

《会場》 朱鷺メッセ スノーホール ホワイエ

ガイドフォーラムin伊豆半島ジオパーク



6月4・5日の2日間、伊豆半島ジオガイド協会主催による「第2回JGNガイドフォーラム in伊豆半島ジオパーク」に津南町と栄村の担当者1名ずつ、計2名で参加してきました。

「災害の記憶を未来につなぐジオガイド」をテーマとして、災害の記憶や、そこでの人々の暮らしや知恵などをガイドやジオパークとしてどう伝えていくか話し合われました。また、基調講演でも防災や減災をジオパークガイドとして住民や観光客にどう伝えたらよいかという内容で講演を聴きました。

結論から言うと、ガイドをしている中で過去の災害はなぜ起きたのか、過去から学び災害に対する備えなどをどう伝えるかは容易なことだと思いました。しかし、それは平時の話であって、非常時はジオパークが防災担当者や消防から情報提供してもらい、SNS等を使って情報発信すると言っていたのですが、実際はそこまで出来ていないのが現状で、熊本地震でもわずかな発信しかできなかったようです。さまざまな情報が飛び交い、逆に錯綜して混乱を招くことになる恐れがあるとも感じましたが、こういう時にガイドがどこまで踏み込んだらいいのか、共通の大きな課題であると思いました。

栄村震災復興祈念館 絆 4月27日オープン！

4月27日、栄村の森宮野原駅前に震災復興祈念館がオープンしました。愛称は「絆」です。開館時間は9時から17時となっており、入館は無料です。

平成23年3月12日、長野・新潟県境付近を震源とした、マグニチュード6.7、最大震度6強の大きな地震が起きました。

震災復興祈念館では、この地震での災害について後世に伝える記録が展示されています。被災直後の様子や復旧から復興に至るまでの様子を紹介するコーナーや防災学習のコーナー、床には栄村全域の航空写真が貼られ、苗場山麓ジオパークの紹介コーナーがあります。

震災復興祈念館は1階に整備されており、ほかにも観光情報の発信や子育て支援ルームなどのスペースを設けた複合施設となっています。

震災復興祈念館のお問い合わせは、(TEL) 0269-87-2200まで。



第2回 苗場山麓ジオパークガイド認定証授与式

4月24日、午後2時から総合センターの職業指導室にて、ガイドの認定証授与式が行われました。第2回認定検定の合格者13人のうち、当日やむを得ない事情で半数ほどの参加者となりましたが、厳粛な中で、上村憲司苗場山麓ジオパーク振興協議会長から認定証を授与されました。

合格者の中には、地域おこし協力隊や行政職員、また教職員や理科センター職員もおり、いろいろな立場で、様々な視点から苗場山麓ジオパークのガイドとしての活躍が期待されます。

そのためにも、是非ともジオサイト巡りをはじめ、ガイド研修や津南学講座など、地域を知る活動に参加していただきたいと思います。今後、同僚や児童生徒への口コミや話題提供に努めていただき、認定ガイドの輪を広げてくださるようお願いいたします。



平成28年度 第1回 ガイドの会総会



4月24日、ガイドの認定証授与式に引き続き、午後3時から総合センターの職業指導室にて、ガイドの会の総会を行いました。

ガイドの会の規約の改正の承認を受け、幹事及び監事の選出が行われました。その後、今年度の事業内容等が話し合われました。総会に引き続き行われた茶話会の話し合いの雰囲気から、ガイドのみなさんの強い意気込みを垣間見ることができました。

ハムカードをご存知ですか？

現在は、電話、メールなど多様な連絡手段がありますが、手紙や電報などが主流の時代、無線もその1つでした。携帯電話の元とも言っても良いかもしれません。

本来、警察や軍隊など国や公共機関によって発達し使われていた無線やラジオに対して、個人的な趣味の範囲内でおこなわれるものをアマチュア無線と言います。その楽しみは多岐に渡りますが、このアマチュア無線において、どこまで遠くの相手と交信できるかを試みる場合があります。そして、その交信したことを相手に証明するものとして「ハムカード」があります。「ハム」とは、アマチュア無線家のことです。

この度、苗場山麓ジオパークのハムカードを作成致しました。エリア内にいるアマチュア無線愛好家と交信することで、このカードを手に入れることができます。

新しい情報発信とコミュニケーションツールの1つとして、今後活用する予定です。

お近くにアマチュア無線愛好家の方がいましたら、ご紹介をお願い申し上げます。



絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



深い森を抜けて、広い沼地のようなところを親子が歩いていますね。信濃川の近辺に、このような地形はありましたか？

つなんの自然！全員集合!!



苗場山麓の自然を体感できる、なじよん夏の企画展です。動物のはく製や骨格標本、植物など、見て触れて自然を楽しみましょう！会期中にはワークショップも開催予定です。

詳しくは、農と縄文の体験実習館“なじよん”まで。

「つなんの自然！全員集合!!」 ★入場無料

《期間》 7月2日(土)～8月21日(日)

《会場》 農と縄文の体験実習館 なじよん

TEL: 025-765-5511

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

美穂 ローム層の露頭



所在地 津南町美穂

種別 地質

河岸段丘の中で、最も高く古い谷上段丘面に位置し、約40万年前から現在までの堆積物を確認することができます。

赤土の風化火山灰（ローム層）には、8.9万年前の阿蘇カルデラからのAso-4火山灰や5.5万年前の大山からのDKP火山灰、2.9万年前の始良カルデラからのAT火山灰、1.5万年前の浅間山からのAs-K火山灰など日本各地の火山灰が堆積しています。

また下層には、バイオタイトローム層と呼ばれる黒雲母を含む層があります。縄文時代の土器を観察すると、この黒雲母が風化して金色に変色したものが含まれており、土器作りなどに利用していたことが分かります。

上野原（溶結凝灰岩）



所在地 栄村上野原

種別 地質

上野原では、鳥甲山の第Ⅱ期噴出物を見ることができます。この噴出物は、T3（上野原溶結凝灰岩）と呼ばれ高温の火砕流として流れたものが自らのもつ熱により溶けて固まり、一見すると溶岩（火山岩）のようになっています。

ここで産出する溶結凝灰岩は灰褐色の安山岩質の岩石で、軽石がつぶれて紫がかかった灰色ののびたレンズ状になって並んでいます。虎の模様に見えることから虎斑石と呼ばれています。

上野原から栃川中流域にいたる林道沿いや布岩山東斜面の標高1,250m付近に分布します。層厚は200m、輝石安山岩質の溶結凝灰岩で、柱状節理が発達しています。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

古型マンモス学術調査

中津川右岸で古型マンモスの臼歯の化石が発見されてから50年余が経過しています。もしかして周辺にマンモスの他の部分が発見されないかということで、この学術調査は苗場山麓ジオパークの調査・研究事業の一環として2年前から進められてきました。

平成26年度の中津川左岸の試掘調査では、古型マンモスの産出した下位の層準のSK030火山灰（白色の粗粒火山灰）は発見することができませんでした。平成27年度の中津川右岸周辺の試掘、地質調査では、古型マンモス臼歯化石発見の東北東方位水平距離40m 垂直距離10mの地点で、SK030を発見しました。

今年度は5月25日（水）・26日（木）、近藤 洋一先生（野尻湖ナウマンゾウ博物館）、渡辺 秀男先生（地学団体研究会）による調査に、ジオパーク学術指導委員会から赤羽貞幸先生（信州大学）、卜部厚志先生（新潟大学）、百原 新先生（千葉大学）のご参加をいただき、共に観察しながら、有益な議論を交わすことができました。

今回の調査では、昨年度発見した「2015年見玉露頭」は確かにSK030の中の上越火山灰であることがわかり、この露頭は、元々今の場所にあったものでなく、上部他の場所から移動したものと考えられました。この「2015年見玉露頭」と比較し、走向（※1）と傾斜（※2）の傾向が他の地域と整合していることから、古型マンモス発見地点の地層（走向N30E 傾斜19W）は、基盤であることがわかりました。また、古型マンモス発見地点周辺（国道405号沿い、穴藤橋から古型マンモス発見地点まで）の露頭の有無を調べたものの、適当な露頭は発見できませんでした。そのほか、古型マンモス発見地点上下の地層のルートマップの作成と柱状図の作成を行いました。さらに、化石の発見を試みたところ、植物の葉（ハンノキ）及び樹木の一部の化石が数点発見されました（※3）。

今後は、年度内に学術報告書を完成させるほか、協議会だよりや『津南学』等により結果を報告する予定です。また、採取した化石の展示も計画しています。

※1 走向…傾いた地層面と水平面が交わって作る線の方向。「N30E」は、北の方位から30°東の方向の意味。

※2 傾斜…地層の傾きのこと。「19W」は、19°西の方向に傾いているという意味。

※3 高橋・小林（1986）、「見玉標本の産出露頭の柱状図（地層を柱状に表した図）」に記載されている植物化石を手がかりに、相当層（同じ地層と見られる層）の化石発見を試みた。



今年度調査した場所



調査の様子



中心付近にハンノキの葉脈化石が見える

絵解きジオパーク その答えは

第2の尾瀬沼と称賛される高層湿原が、苗場山の山頂から連なる尾根上（標高約1,350m～1,570m）の小松原湿原に分布します。初夏の青い空が池塘の水面に写りきれいです。森と湿原の境界は神秘的な空気が流れています。親子が歩いている木道は、湿原を保護するためのものです。その材質から腐食が激しく、取り替えの時期です。このすばらしい自然環境に触れるための木道ですから、知の世紀といわれている現在、歩く私たちが民間の知恵と汗で木道の入れ替えと今後の管理に伴う「財源」確保を呼び掛けたいものですね。